



尚 操



〈発行所〉

鳥取県立倉吉西高等学校

尚 操 会

〒682-0925

鳥取県倉吉市秋喜20

倉吉西高等学校内

印刷 (有) 矢積印刷

0858(22)-5312

2002 西高祭テーマ「夢」



合唱



催し物



ピアノ伴奏



模擬店

花・水・木

巡る想い

西高の学び舎をあとにして、三十五
年が過ぎました。もうそんなに月日が経っ
たのかと思うほど、当時の場面場面がはっ
きりと思い出されることがあります。

全校集会の時に、教室の前廊下に整理
している時の談笑の光景、苦手な教科の
テストを返してもらい隠してみている光
景(たびたび)、運動会での仮装行列の
準備に放課後残って作業をしている光景
等々ついこの前のように甦ってきます。

私の頃は、まだ女子校でしたから夢多
き女子生徒たちは、他校の学園祭にいっ
て、ステキな男子生徒を探したり、注目
の人を見に行ったりしておりました。ま
た、当時は交換日記が流行っていて、ワ
クワクしながら青春の想いを綴ったもの
でした。西高で培うことができた女性と
しての優しさと強さ(教養は無理でした)
は、今の私にとっては何にも勝る味方と
なっているように思います。今、母校で
学んでいる生徒たちも、きっと卒業して
みて学校生活の大切さがわかることしょ
う。西高で高校生活を送れてよかったと、
五十才、六十才になっても思えるように、
誇れるように頑張ってください。

つれづれの想いを書き、とりとめのな
い文章になってしまいました。これでペ
ンを置きます。

西高十四回生 岡崎千賀子

ごあいさつ



会長
道祖尾 篤彦
(西高一回生)

平成六年創立八十周年から、まもなく九十周年を迎えようとしている昨今ですが、会員皆様方益々ご健勝のことと推察します。

九十周年記念事業も学校当局の意向に添い、総会の承認を得ながらご支援したいものと思っておりますが、これも偏に会員皆様方のご協力ご支援あってできるもの、よろしく願います。

尚操会が懐かしさを育む組織であるだけではなく、新しい倉吉西高教育を支え、地域社会に貢献する組織でもあるように願っています。今度ともご支援お願いします。



副会長
米山 重子
(倉女二九回生)

中島恵美子先生(倉女十五期)

高橋惇子先生(倉女二十五期)今は亡きお二人の尚操会に寄せられた志は、会長・副会長として、七十周年、八十周年の記念事業を見事に成し遂げられました。今や西高も五十回の卒業生を送り出す程の学校となり、この度の教育改革の先鋒を担う可く新校舎も建ち前途洋々の様は嬉しく頼もしい限りです。もちろん尚操会は、学校の

発展に多いに貢献しなければなりません。弥栄えゆく日の本の古きをたずね新しき道を求めてひたすらにかざせ心の花桜高き理想のわれら友!!



副会長
新藤 三恵
(西高一回生)

少年による信じがたい凶悪事件が、なぜ次々と起るのだろうか。日本の教育が死んでしまったのだろうか。日本の崩壊を救う唯一の手段は、幼年期から青年期に「魂」の存在を伝える教育を怠らないことであるという。



副会長
川田 良雄
(西高三回生)

心の教育は親以外にはできない。我が子の教育を他人まかせにしている、親とは言えない。親は知識や物を超えた世界の存在を身をもって子どもに伝えるべきであろう。もう一度、今の教育を考えてみるべきである。



副会長
三谷 昇
(西高十九回生)

西高第十九回の卒業で、今年四十九才になります。卒業当時から、クラス会の世話

をしていたことから、十年前から副会長をさせていただいています。小学校に勤めている関係もあって、教え子たちも尚操会の仲間入りを近年しています。倉女・西高の先輩の方々と共に、例年ある総会や事業に携わらせていただく中で、世代が引き継ぐことの大事さを感じています。また、私の学年は、卒業年度合同の会を四年に一度開催しています。皆さんも開かれてはいかがでしょうか。



副会長
笠原 艶子
(西高二十四回生)

倉吉西高を卒業して二十五年、早いものです。

同じ学校を卒業した者同志が集う尚操会に関わるようになって、異年令の交流から学ぶことが多くあります。そして、伝承し続ける大切さも感じています。

倉女卒業生のパワーはすごい!!いつも元気づけていただいています。西高卒業生の結集力はこれから発揮されるでしょう。

自分たちが育てられたように、そして我が子を見守り、育ててきたように、尚操会の仲間と共に、更なる成長を楽しみたいと思います。



学校長
岸田 美明

第三の教育改革期と言われるよ

うになつてから久しい。否、本格的な教育改革は緒に就いたばかりかもしれない。本校も鳥取県の高校教育改革により、全日制単位制高校となつてから四年目を迎えた。進路目標実現のため、自らの力で自己の可能性を最大限伸ばすのに適したシステムのもと、生徒たちは今日も各自が選択した科目の教科書や資料を手にし、次の授業の教室へと移動している。



教頭
古屋 修二

倉吉西高も単位制普通科高校に移行して四年目を迎えました。この春単位制の一期生を送り出しました。単位制にふさわしく、難関大学を始め極めてバラエティに富んだ進路先となりました。倉吉西高の卒業生、尚操会員としてあらゆる分野で活躍してくれることとしたいと思います。

気になることは単位制の導入とともに再び女生徒の割合が高くなります。尚操会の総会でも、支部の会でも男性がとて少なく残念に思っています。男性の会員も多くなっていますので、積極的に参加して欲しいものです。



教頭
浪花 良孝

うつとうしい雨が続いています。校内では西高祭の準備で熱気にあふれています。早朝、昼休憩には合唱練習の音が聞こえてきます。もちろん、放課後にはいろいろな音(騒音?)が飛び交っています。教室や廊下には段ボール、布、様々な紙の類が積まれています。実行委員会を中心にして、検討、協議、呼びかけと、次々に、協力をして問題を解決していく様子は頼もしく思われますし、献身的に取り組む様子は大人びた感じさえします。最後まで、全力を尽くし、成功させて欲しいものです。

学園祭は高校生活の中で大きなウエイトを占めますが、また、「学習」は将来の進路を保証するために欠かせません。特に、ステージ3(三年生)の諸君には難関が間近に迫っています。西高祭が終われば気持ちを切り替え、早く授業・部活動の「本業」に立ち返る必要があります。

今年はどうな梅雨明けとなるのでしょうか。すっきりと梅雨が明けるといいですね。梅雨明け後の太陽のような熱い気持ちで「本業」に立ち返って欲しいものです。



支部だより

関東支部

新世紀のはじまりに

第十一回尚操会関東支部同窓会が十一月三日法曹会館で開催されました。当日は、今にも降りだしそうなあいにくの曇り空でしたが、開会の一時前には皆さん早々とお集まりになり、準備中の我々幹事はびっくりし、少々あわててしまいました。年に一度の再会に胸おどる思いでおのずと足が速く皆さんを会場へと運ばせている様でした。遠路はるばる倉吉より、尚操会副会長の新藤三恵様、教頭の高屋修二先生をお迎えし、同窓会の皆様には多数出席していただきました。テーブルの上には奇麗なお花が飾られ、日比谷公園を見わたす雰囲気はステキでロマンチックでした。初めに新藤様より関東支部での努力発展に対してお誉めをいただき、古屋教頭先生からは、母校の現状(単位制)についてや運動部のインターハイ出場、



クラブ活動等々のお話をうかがい、後輩たちの大活躍に大いに拍手を送り、とても誇らしい気持ちになりました。文化の日の昼下がり、フランス料理のフルコースに舌鼓を打ちながら、若かった頃の楽しい日々を語り心はずつかり女学生です。宴も佳境に入った頃、支部長の里見の司会進行で、本日のハイライトであるビンゴゲームが始まりました。「リーチ、ビンゴ!」と華やいだ若々しい元気な声がか

場一杯に響きわたり、景品もたくさんに用意されていて、大いに盛り上がりました。楽しい時間もどんどん過ぎていくなか参加者全員で童謡を歌ったり、倉女、倉西の校歌を声高らかに斉唱して散会となりました。先輩方から、尚操会が末長く続けていけるよう応援するので、幹事学年は大変ご苦労ですが頑張りますよと力強いお言葉をおいただきました。これからも年一回の楽しみな会になればいいなあ……と心を強くした次第です。学年ごとに記念写真に収まり、来年も元氣でお会いしましょうと誓いながら、いつのまにか降りはじめた雨の中を家路につきました。皆様のご協力により盛会の中、無事終えることができました。尚操会の皆さんが益々ご健勝でありますようご発展のほどをお祈り申し上げます。

西高七回生 里見 昭子

九州支部

第三回総会を終えて

去る六月三十日、第三回総会を無事に開催することができました。今回は、支部役員時代の交代を行う予定でしたが、下交渉の段階で難航したため、支部解散も止むを得ないことになったのではないかと心配して、会長や校長のご出席をいただかずに支部員のみによる会合となりました。

出席者は十名程でしたが、若き日の思い出と言えば、皆々女学校・高校時代に集約されて話に花が咲き、母校への思慕の情に切なるものを感じた会合となりました。

危惧していた点もすんなりと運びまして、旧役員一同、安堵したことでございます。

第三期から新支部長 永井敬子様(西高七期)のもとで数名の役員の方々が運営して下さることになりました。



会食後は、高女時代の校歌、西高の校歌を合唱して誠に楽しい歓談に盛り上がりました。思い出をカメラに収めて、再会を期しつつ散会した次第でございます。

倉女二十回生 中野 和子

クラス会だより

六道湖畔にて

平成十三年六月二十四日、松江温泉「なにわ一水館」の庭に夕日が射してきた。折しも五十八名の女性が離壇に並んで記念撮影をしている。不思議なこと、全員がステージに立ったように華やいで見える。暮れかかる陽を浴びながら自身、人生のたそがれ時にかかっていると誰一人、思っていないかのようだった。たつた今、同期の小原喜代さんが歌ってくださいました「宵待草」の歌の翼に「君よ知るや南の国」のメロディーが甘い余韻となつて、ただよっているせいなのか。



ともあれ三十三期生は戦争と平和を、四年ばかりの間に体験したという点では誠に稀有な世代であり、次の宴会で繰り広げられた恒例の輪踊りは、一挙に五十余年の歳月を後に押しやるほどの勢であつた。

た。

翌日は城をめぐる緑と紫陽花を愛でながら堀を遊覧し、ティファニー庭園美術館のステンドグラスの色に酔い、一泊二日のクラス会は無事終了した。

平成十三年度のクラス会を企画し実行するに当って、資金面でご援助賜りました尚操会に、感謝いたします。

倉女三十三回生 門脇 美恵

還暦を祝う会

三年に一度の倉吉西高七回生三年四組クラス会も回を重ねて、今年には記念すべき「赤いちゃんちゃんこ」のクラス会を二〇〇一年七月十五・十六日三朝温泉深泉閣に於いて開催しました。

案内状を手にした時「還暦」……えっ!!誰が……そうかみんなか……。

西高を飛びたつて四十一年。いつのまにか時は過ぎたが、顔も気持ちも当時のそのまんま。その上に年輪を刻み込んだ重みがプラスされて迎えた還暦。みんな美しかった。神主さんの御払いを神妙に受け、幹事さんが心を込めて手作りしてくれたという赤いちゃんちゃんこでハイ!!パチリ。

宴会の幕開け、まずはいろいろな思いを胸に校歌を歌う。そして銭太鼓に三味線、ハワイアンにカラオケ、倉吉弁丸出しのコントに合せた即興芝居 e t c ……次々に飛

び出す芸にお腹をかかえ涙を流して笑いこぼげ、飲むよりおしゃべりに、パワー全開。みんなは変わっていないなあー。



華の二年一組クラス会

去る十月二十一日、三朝にて恩師の三牧薫先生をお迎えして四年ぶりのクラス会を開催しました。総勢十五名。

華の三の一の最高の幸せは、恩師直筆の短冊を出席者全員が頂戴することです。今回は「神無月されどもかこのありけりな君ら湯の宿つどひしなれど」

その後、定例の講義を受けて、お料理に、思い出話に、近況にと話がはずみまわりました。最後に歌った校歌は十八才の歌声でした。

翌日はパークスクエア、現在の母校、そして三牧先生宅を經由して紅葉には少し早い大山へ

西高七回生 島根県在住

山下 倫代

赤いちやんちゃんご寄贈

「赤いちやんちゃん」三十枚、尚操会事務局へ寄贈しました。ご希望の方はご利用下さい。



平成14年度 尚操会総会案内

とき 8月18日(日) 10時から
ところ 倉吉シティホテル
会費 3,000円

総会 10時から
講演会

西高の思い出
「余戸谷町から秋喜へ」

山根 怜先生

懇親会 12時から

百歳ばんざい!!



先日、倉吉市に一人暮らしをしていらつしやる杉本暉子(倉女四回生)さんにお逢いしました。

と車を走らせました。京阪神からの帰郷組はもとより、県内にいる者も大自然に身を委ね、身も心もリラクセスしました。今回は友人はだしの先生の手打ちそばをご馳走になれるかも。

西高十二回生 細川 房子

今年で百歳を迎えられた杉本さんは、五月に木目込み人形の個展を開かれました。九十歳で木目込み人形に出逢つてからの、十年間の作品を展示され、多くの方々が会場に訪れ、作品に見入っておられました。

杉本さんは、九十歳の時に、白内障の手術をし、リユーマチのりハビリもかねて木目込み人形造りを始められたそうです。まず『福カエル』に挑戦。まず台座を磨くのですが、それが大変。なかなか先生の許可がでなかつたそうです。布をうめ込む溝も深く、くつきり作っておかないと後が大変だとか。かなりの腕力が必要ですし、視力がよくないとできない作業だそうです。今ではリユーマチで不自由

だった手先が、器用に動くようになったと喜んでおられました。

杉本さんが生まれた頃は戦争もあつたりして、自分のひな人形がなかつたそうです。百歳を前に木目込み人形で、ひな人形を作ることに挑戦、一年近くかかって段飾りを完成させられたそうです。

現在は週一回のデイサービスで木目込み人形教室に行くのが楽しみだそうです。前日からワクワクしてよく眠れないこともあるとか。これが長寿の秘訣かもしれません。

教室には十名くらいおられ、皆さん八十三歳〜百歳、経験も、十年になる人もあれば、今年始めたばかりの方もおられました。時々歌を唄つたり、体操したりしながら木目込み人形造りをしておられる皆さん、全員イキイキとして、とってもステキな笑顔をお持ちの方々がかりでした。

講師の横山幸子(倉西十三回生)先生は、自宅でも木目込み人形教室をしておられます。杉本さんの作品について、「百歳の方が作つたとは思えないくらいきれいに仕



上がっています」とほめておられました。

杉本さんは毎年、干支の人形を二対作られるそうですが、今年の「勇馬」は一体仕上げるのがやっとなかつたとか。もう一体はどうされますかと問いかけると、「十二年後に仕上げます」とニコッと答えられました。

杉本暉子さん、健康を保つ自分のペースで、いつまでも元気に過ごして下さい。



あとがき

会員の皆様いかがお過ごしでしょうか。皆様にはいつもお世話になっております。ありがとうございます。尚操会に携わってたくさんの人と出会えます。特にほのぼのとしたことに出合った時に心の中に温かい気持ちが生まれとても嬉しく思います。そのことを楽しみに事務局の仕事をしています。

西高九回生 森本 寛子